

新庁舎実施設計の検討状況について

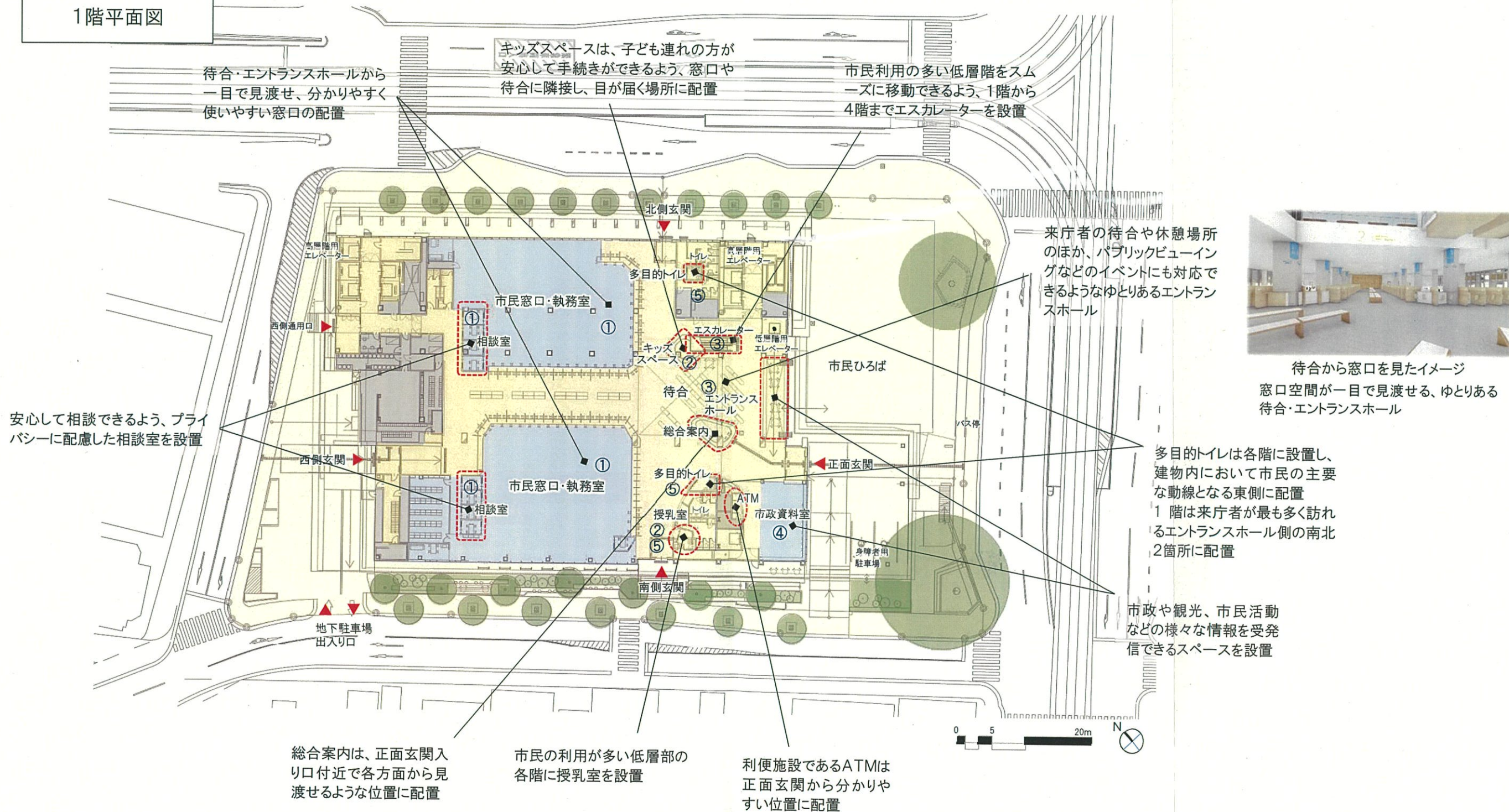
1 各階の平面計画について

(1) 1階 ～身近な手続き、相談の総合窓口～

《基本設計で決定した事項》

- ①利用しやすい窓口とプライバシーへの配慮
- ②快適な待合スペース
- ③ゆとりあるエントランスホールとエスカレーターの設置
- ④市民と行政との協働の促進や市民間の交流の拡大につながる市民利用スペース
- ⑤すべての人に配慮したユニバーサルデザイン

1階平面図



待合から窓口を見たイメージ  
窓口空間が一目で見渡せる、ゆとりある待合・エントランスホール

(2) 2階 ～子育てワンストップ窓口～

(3) 3階 ～専門的な手続き・相談窓口(税・保険関係など)～

《基本設計で決定した事項》

- |                                      |                       |                            |
|--------------------------------------|-----------------------|----------------------------|
| ①利用しやすい窓口とプライバシーへの配慮                 | ②快適な待合スペース            | ③ゆとりあるエントランスホールとエスカレーターの設置 |
| ④市民と行政との協働の促進や市民間の交流の拡大につながる市民利用スペース | ⑤すべての人に配慮したユニバーサルデザイン |                            |

2階平面図

子ども連れの方が安心して手続きができるよう、窓口に囲まれるようにキッズスペースを配置



2階キッズスペースイメージ

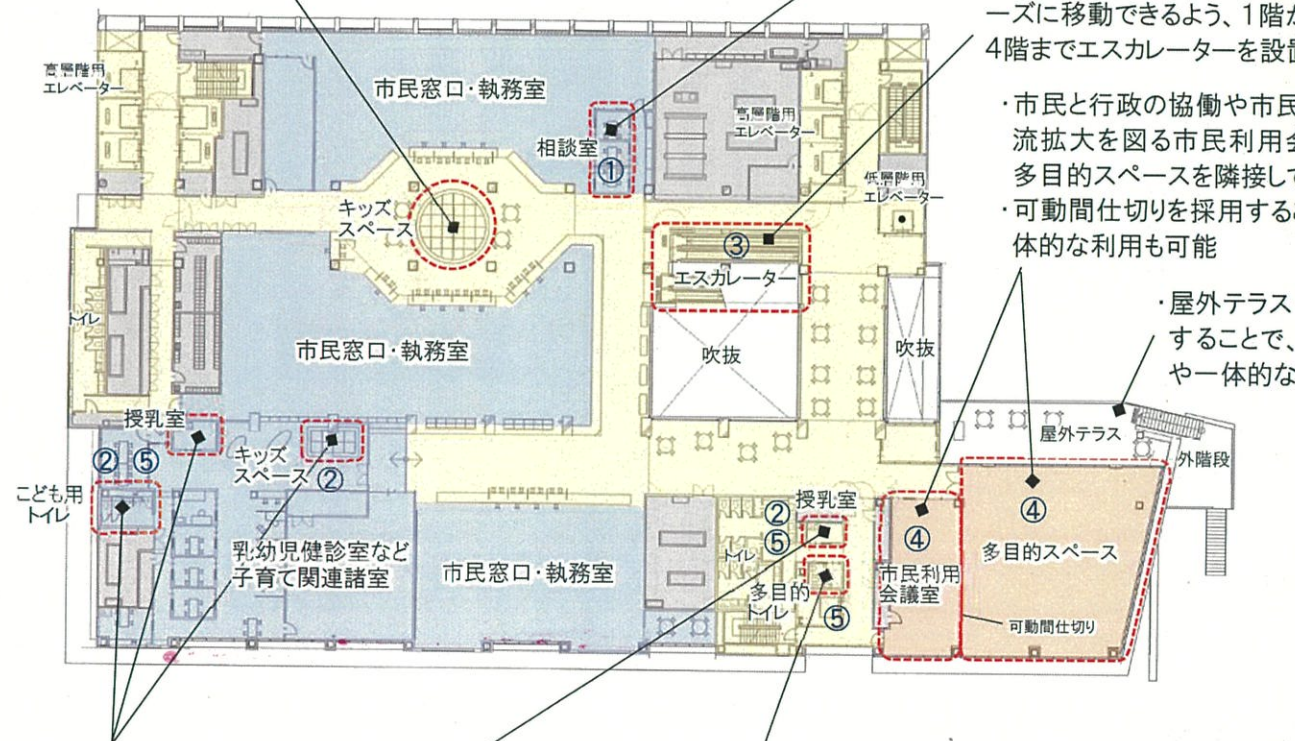
安心して手続きができるよう、窓口に囲まれるようにキッズスペースを配置

安心して相談できるよう、プライバシーに配慮した相談室を設置

市民利用の多い低層階をスムーズに移動できるよう、1階から4階までエスカレーターを設置

・市民と行政の協働や市民間の交流拡大を図る市民利用会議室・多目的スペースを隣接して配置  
・可動間仕切りを採用することで一体的な利用も可能

・屋外テラス・外階段を設置することで、広場との連携や一体的な活用も可能



乳幼児健診等の諸室内には、キッズスペース、授乳室、こども用トイレを設置

市民の利用が多い低層部の各階に授乳室を設置

多目的トイレは各階に設置し、建物内において市民の主要な動線となる東側に配置

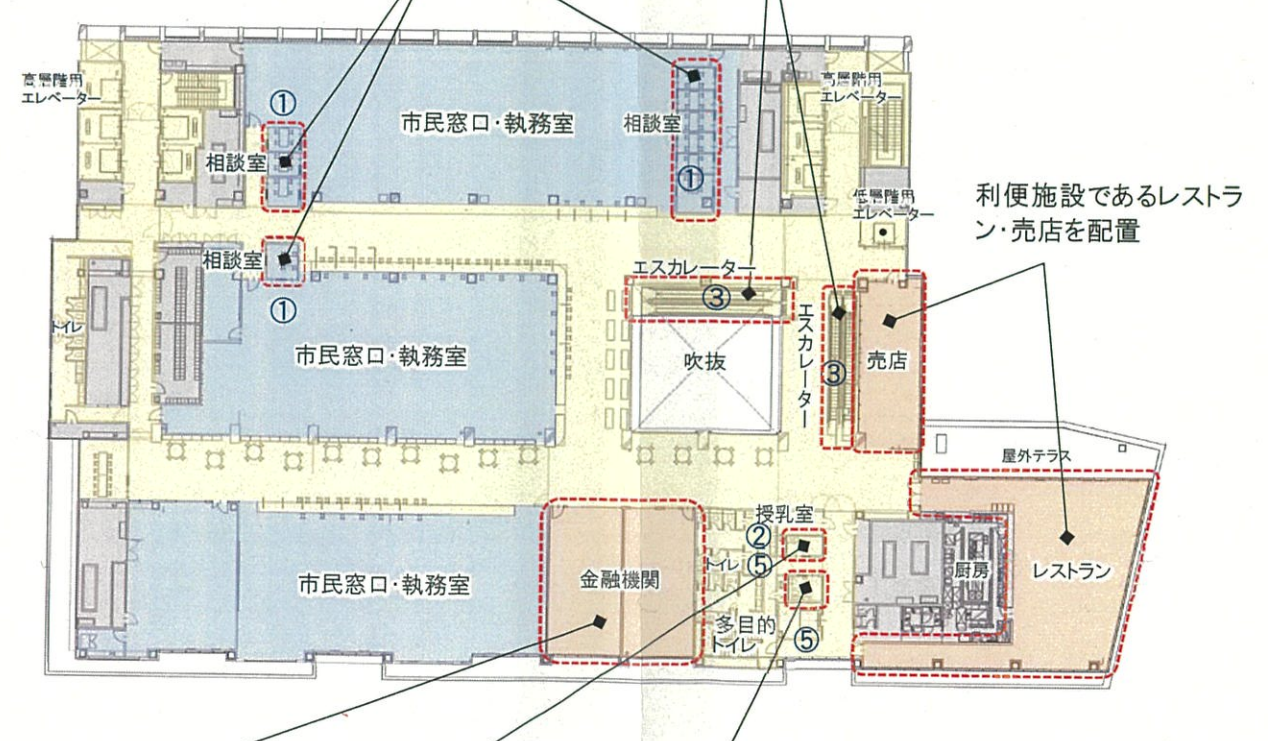


3階平面図

安心して相談できるよう、プライバシーに配慮した相談室を設置

市民利用の多い低層階をスムーズに移動できるよう、1階から4階までエスカレーターを設置

便利施設であるレストラン・売店を配置



便利施設として金融機関を配置

市民の利用が多い低層部の各階に授乳室を設置

多目的トイレは各階に設置し、建物内において市民の主要な動線となる東側に配置

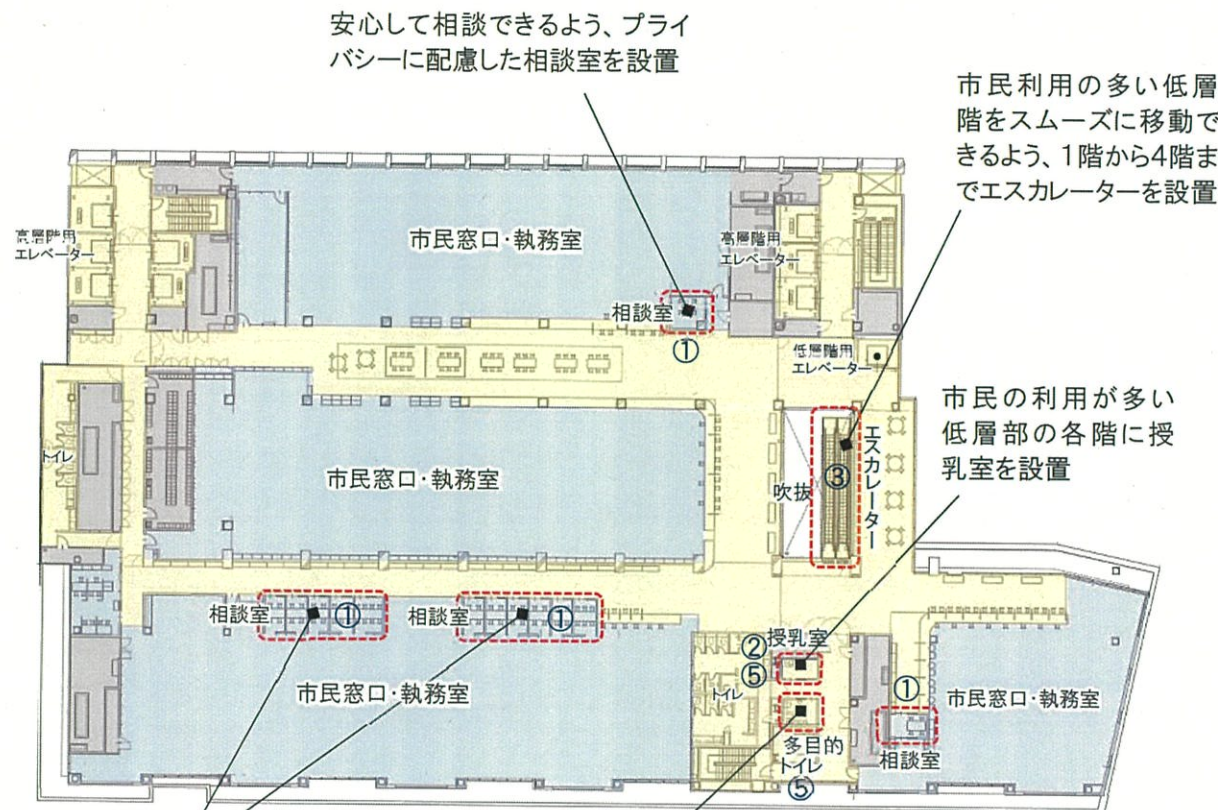


- (4) 4階 ～専門的な手続き・相談窓口(生活保護・税関係など)～
- (5) 5階 ～市議会～

《基本設計で決定した事項》

- ① 利用しやすい窓口とプライバシーへの配慮
- ② 快適な待合スペース
- ③ ゆとりあるエントランスホールとエスカレーターの設置
- ④ 市民と行政との協働の促進や市民間の交流の拡大につながる市民利用スペース
- ⑤ すべての人に配慮したユニバーサルデザイン

4階平面図

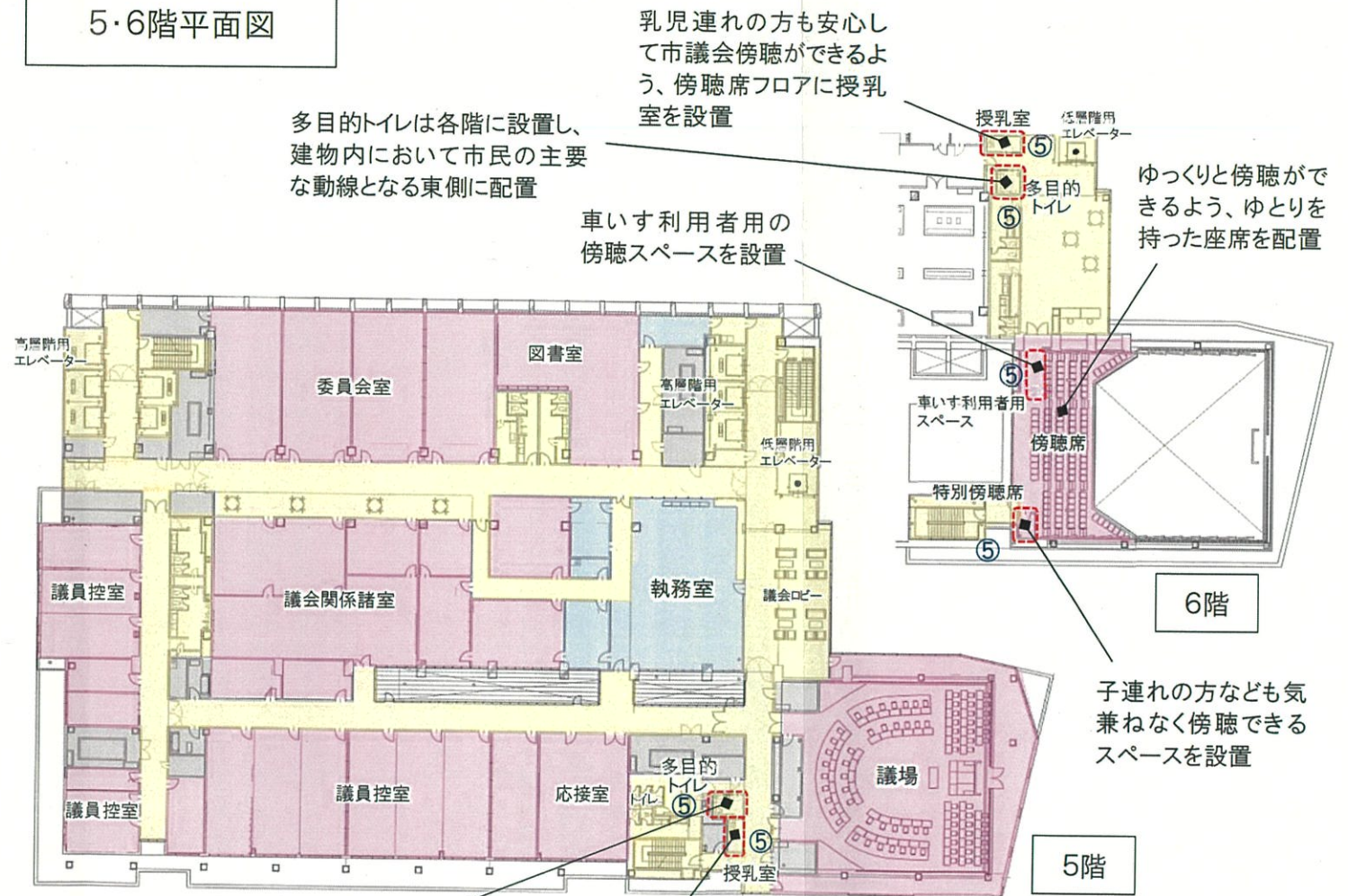


安心して相談できるよう、プライバシーに配慮した相談室を設置

多目的トイレは各階に設置し、建物内において市民の主要な動線となる東側に配置



5・6階平面図



多目的トイレは各階に設置し、建物内において市民の主要な動線となる東側に配置

車いす利用者用の傍聴スペースを設置

乳児連れの方も安心して市議会傍聴ができるよう、傍聴席フロアに授乳室を設置

ゆっくりと傍聴ができるよう、ゆとりを持った座席を配置

子連れの方なども気兼ねなく傍聴できるスペースを設置

多目的トイレは各階に設置し、建物内において市民の主要な動線となる東側に配置

子育て世代の方も安心して市議会への相談等に訪れることができるよう、議会フロアにも授乳室を設置

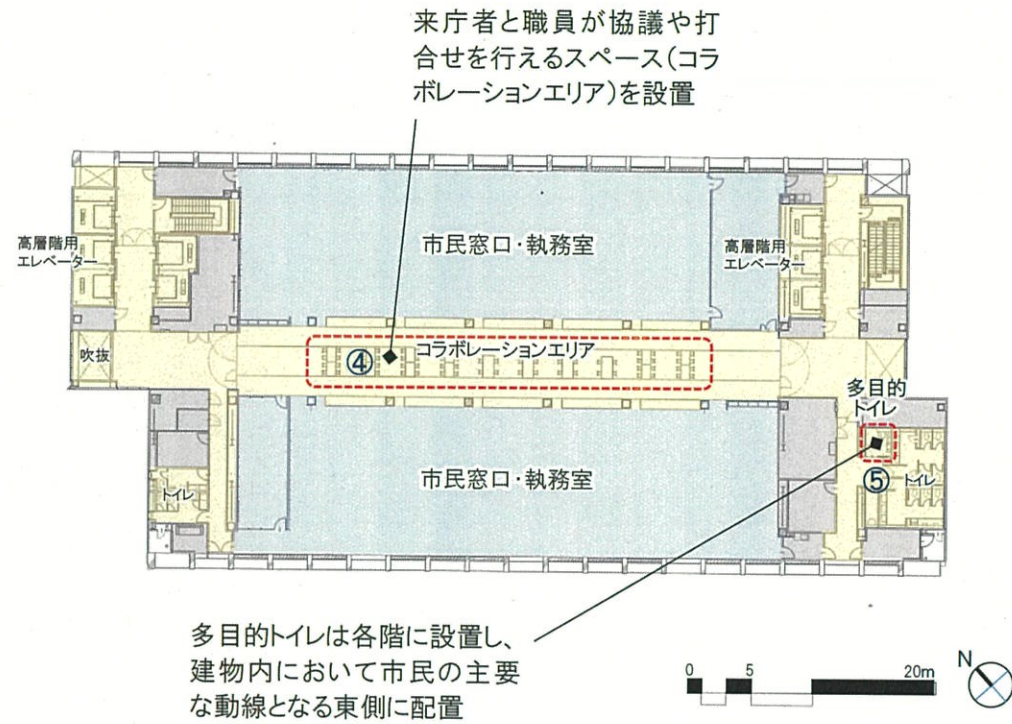


- (6) 6階～18階 ～執務室～
- (7) 19階 ～展望フロア～

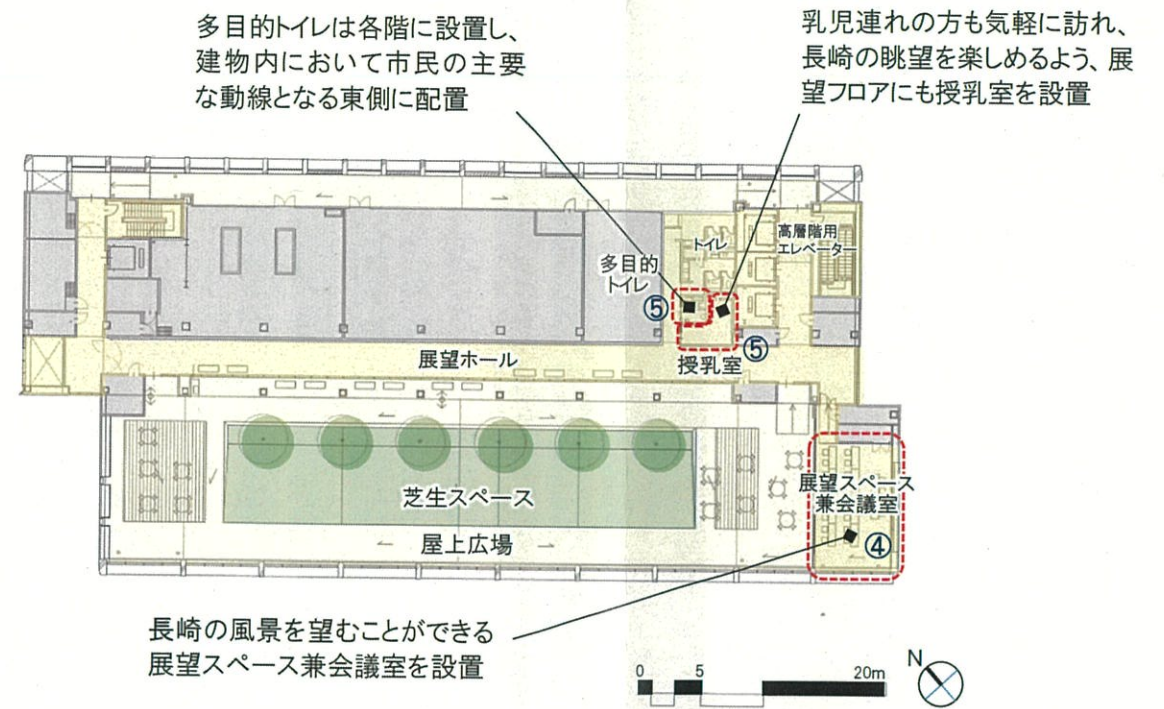
《基本設計で決定した事項》

- ① 利用しやすい窓口とプライバシーへの配慮
- ② 快適な待合スペース
- ③ ゆとりあるエントランスホールとエスカレーターの設定
- ④ 市民と行政との協働の促進や市民間の交流の拡大につながる市民利用スペース
- ⑤ すべての人に配慮したユニバーサルデザイン

基準階平面図



19階平面図



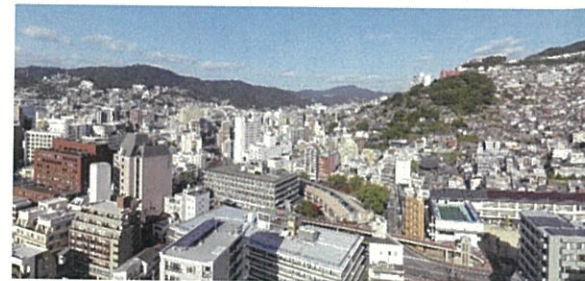
<眺望イメージ>



北側(長崎署側)立山、諏訪神社を望む



東側(市民会館側) 風頭山、寺町を望む



西側(現市庁舎側) 稲佐山を望む

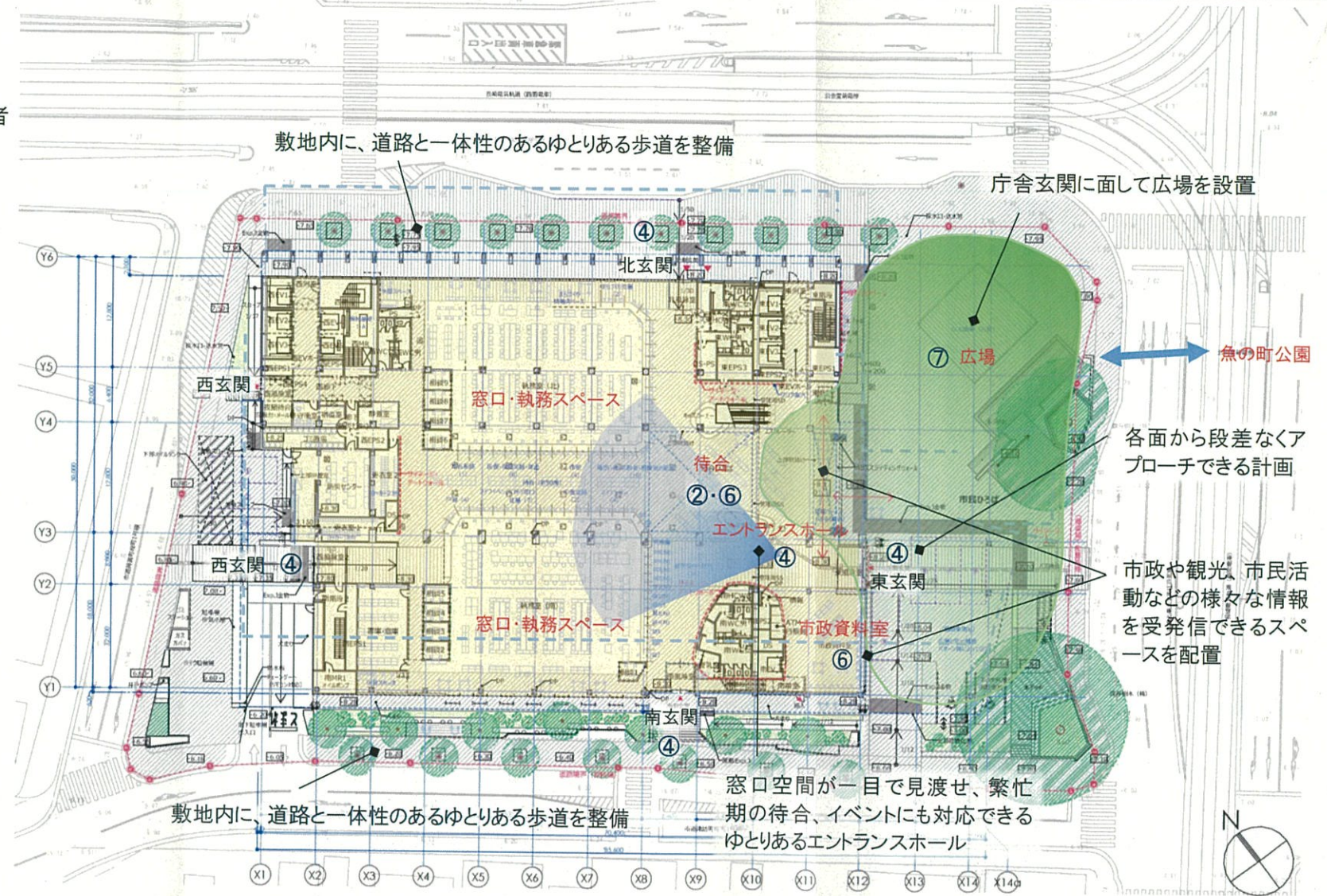
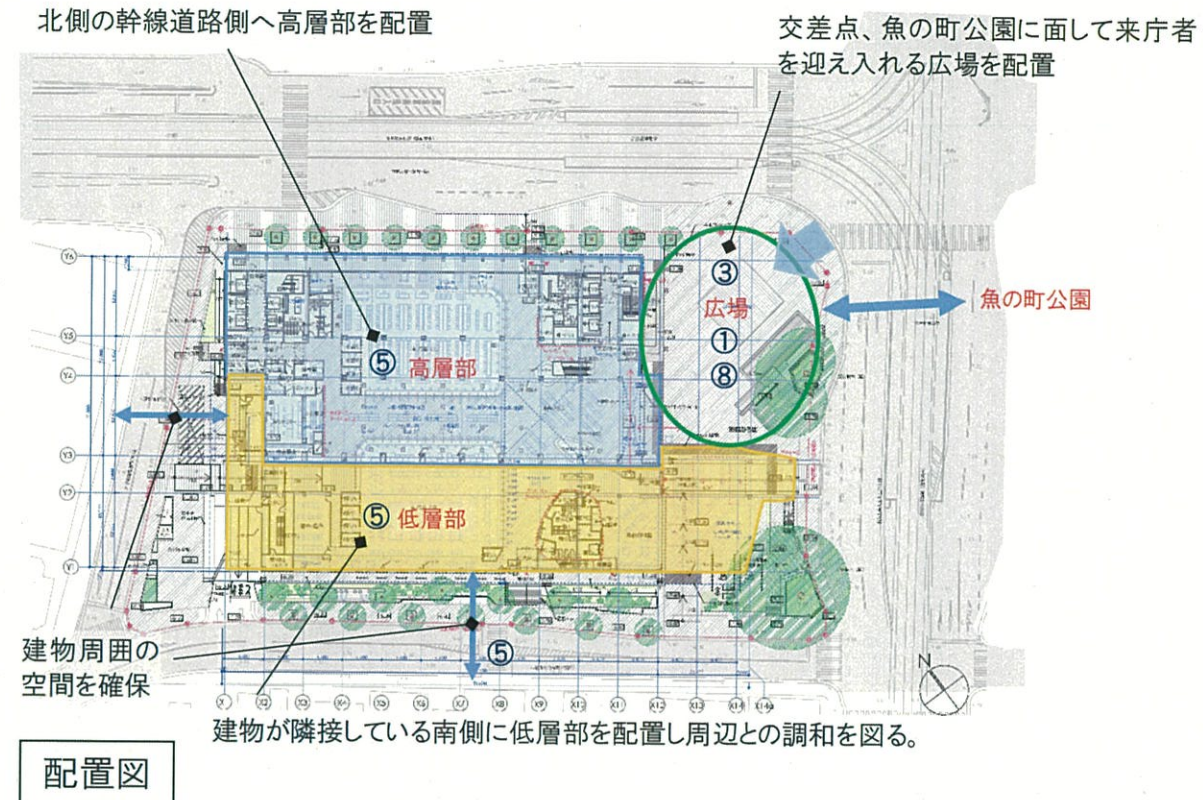


南側(中央橋側) 長崎港を望む

## 2 意匠・デザインについて

### 《基本設計で決定した事項》

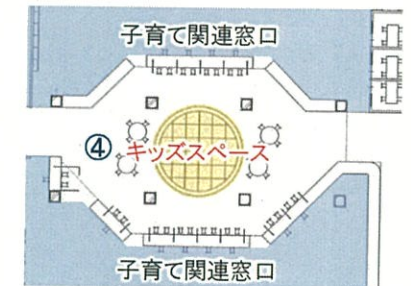
- ①市民が身近に感じ、親しまれるデザイン
- ②市民と行政の協働や市民間の交流を促進するデザイン
- ③まちなかへの回遊性を高め、賑わい創出に寄与するデザイン
- ④誰にとっても分かりやすく、安心して使いやすいデザイン
- ⑤周辺のみち並みに調和し、圧迫感を抑えたデザイン
- ⑥快適に待ち時間を過ごすことができるようなデザイン
- ⑦庁舎と広場が連携し、一体的に活用できるデザイン
- ⑧土地の歴史性を踏まえたデザイン



待合から窓口を見たイメージ  
窓口空間が一目で見渡せる、ゆとりある待合・エントランスホール



2階吹抜けから1階を見たイメージ  
市民が多く訪れる低層階は、上下階を見渡せる吹抜けを設置



2階キッズスペース平面図  
安心して手続きができるよう、窓口に囲まれるようにキッズスペースを配置

# (1) 建物の外観や形態について

## 低層部

### 《基本設計で決定した事項》

- ①市民が身近に感じ、親しまれるデザイン
- ②市民と行政の協働や市民間の交流の拡大を図るデザイン
- ③庁舎と広場が連携し、一体的に活用できるデザイン
- ④快適に待ち時間を過ごすことができるようなデザイン
- ⑤周辺のまち並みに調和し、圧迫感を抑えたデザイン
- ⑥土地の歴史性を踏まえたデザイン

東側(市民会館側)から見たイメージ

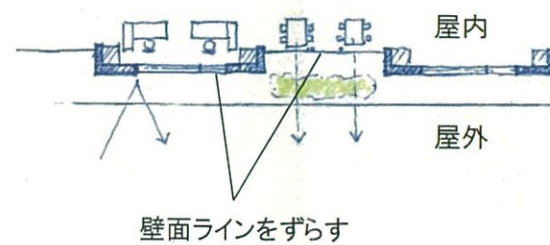


- ①・②・③・④
- ・広場に面する庁舎玄関、エントランスホールはガラス張りとし、広場との一体性を感じさせる計画とする。
  - ・低層部にはバルコニーを設け、屋内外の連続性を高める。

南側(中央橋側)から見たイメージ



- ⑤ 街並みを意識し、近隣のスケールにあわせた分節化を図る。また、通り向かいの住居などに対する見合いなどに配慮し、庇の設置や壁面ラインのずらし、窓の配置を行う。
- ⑥ このまちの始まりである町家の街並みを意識した色合いやデザインとする。



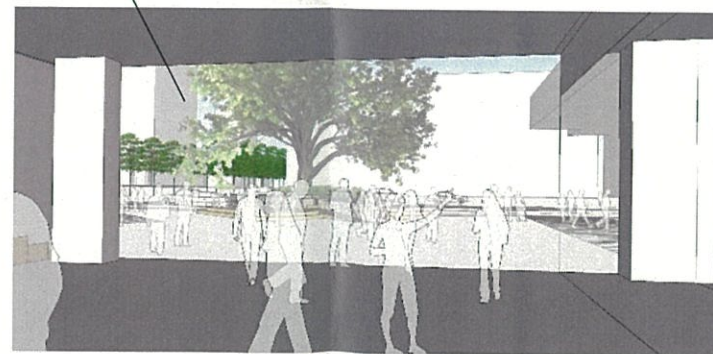
- ④ エントランスホールに面して吹抜け及び大きな開口部を設け、明るく開放感があり快適な空間とする。



- ⑤ 建物が隣接している南側に低層部を配置し周辺との調和を図る。



- ①・②・③・④
- ・広場に面して待合空間、多目的スペースやレストランを配置する。
  - ・市民が利用する低層部から広場における市民の活動が見えるようにガラス張りとする。



エントランスホールから広場を見たイメージ



# 高層部

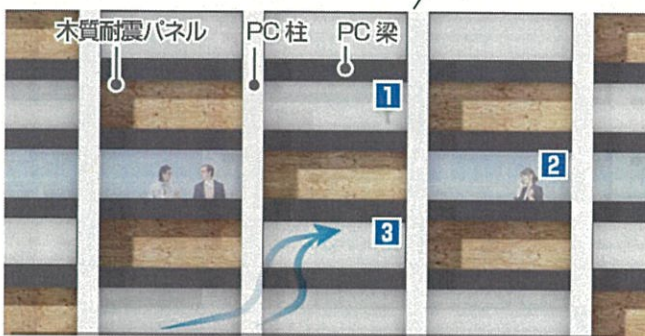
## 《基本設計で決定した事項》

- ① 周辺のまち並みに調和し、圧迫感を抑えたデザイン
- ② 木の表情が表れるデザイン
- ③ 環境負荷を低減し、市民の環境への意識を高めるデザイン
- ④ 将来の変化に柔軟に対応できるデザイン

北側(長崎署側)から見たイメージ



北側から見たイメージ



PCワッフル架構+木質耐震パネルの「外殻ワッフル構造」

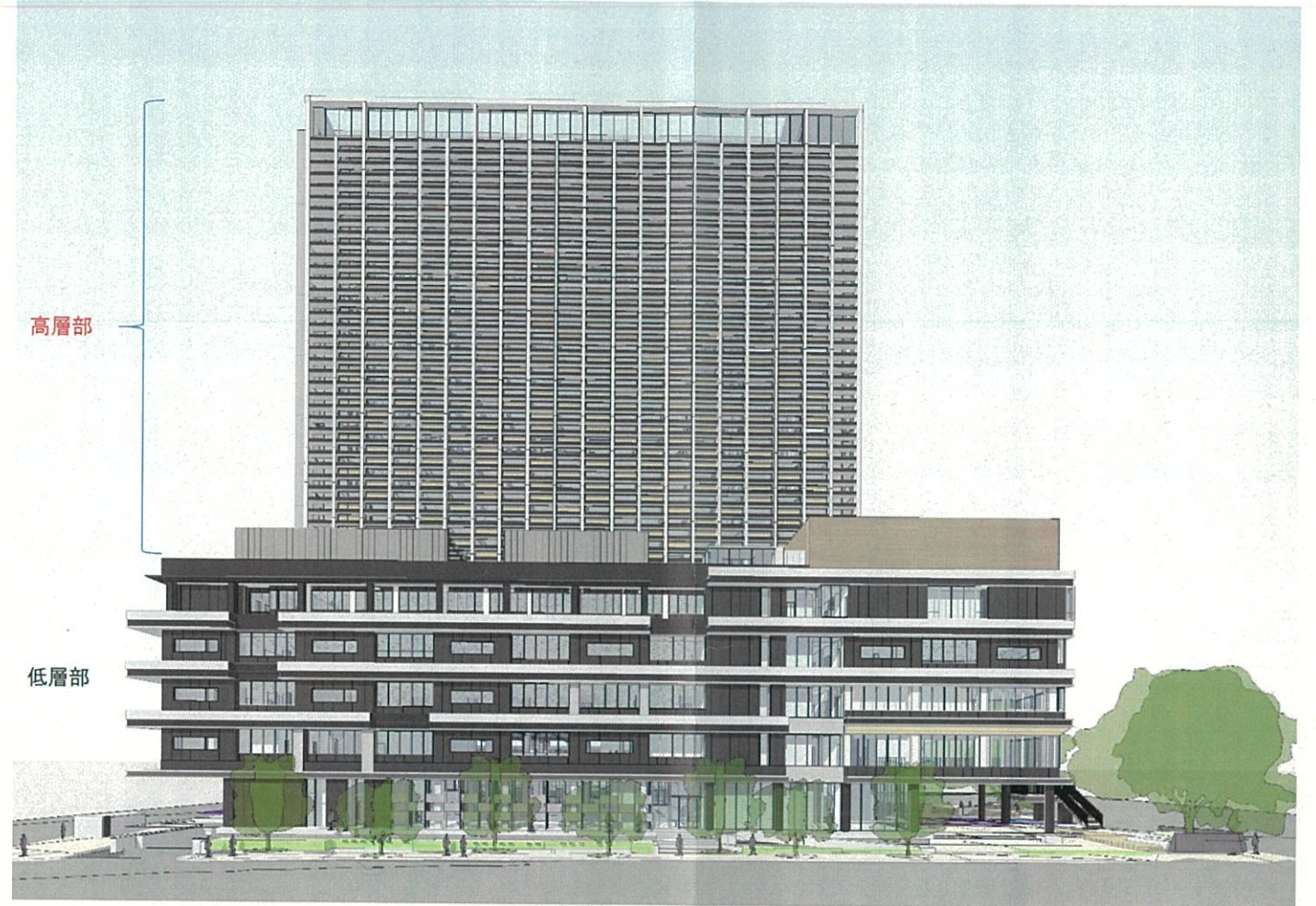
### 【窓の役割の向上】

・窓の“役割”に応じて、それぞれに最適な仕様とします。

- 1 「光」を取り入れる窓  
透明ガラス（複層ガラスFIX窓）
- 2 「外を見る」窓  
透明ガラス（複層ガラスFIX窓）
- 3 「風・光」を取り入れる窓  
手で開けられる自然換気可能なサッシ  
透明ガラス

・市民の拠り所となる安心・安全な庁舎のシンボルとして、免震効果を高めるため木質耐震パネルを用いた「外殻ワッフル構造」  
・木のパネルは炭素を固定化し、断熱性にも優れるとともに、木の表情が外観として表れるデザインとする。

南側(中央橋側)から見たイメージ



南側から見たイメージ



執務室断面イメージ

③ 高層部の奥行きのある柱、梁により、夏季の日射負荷を低減する。

- ② 免震効果を高める木質耐震パネルを内装としても利用する。
- ③ 高い断熱性能をもつ木質耐震パネルによって、外部からの熱負荷を低減する。

④ 社会経済情勢の変化に応じて柔軟に対応できる構造やユニバーサルレイアウトの採用

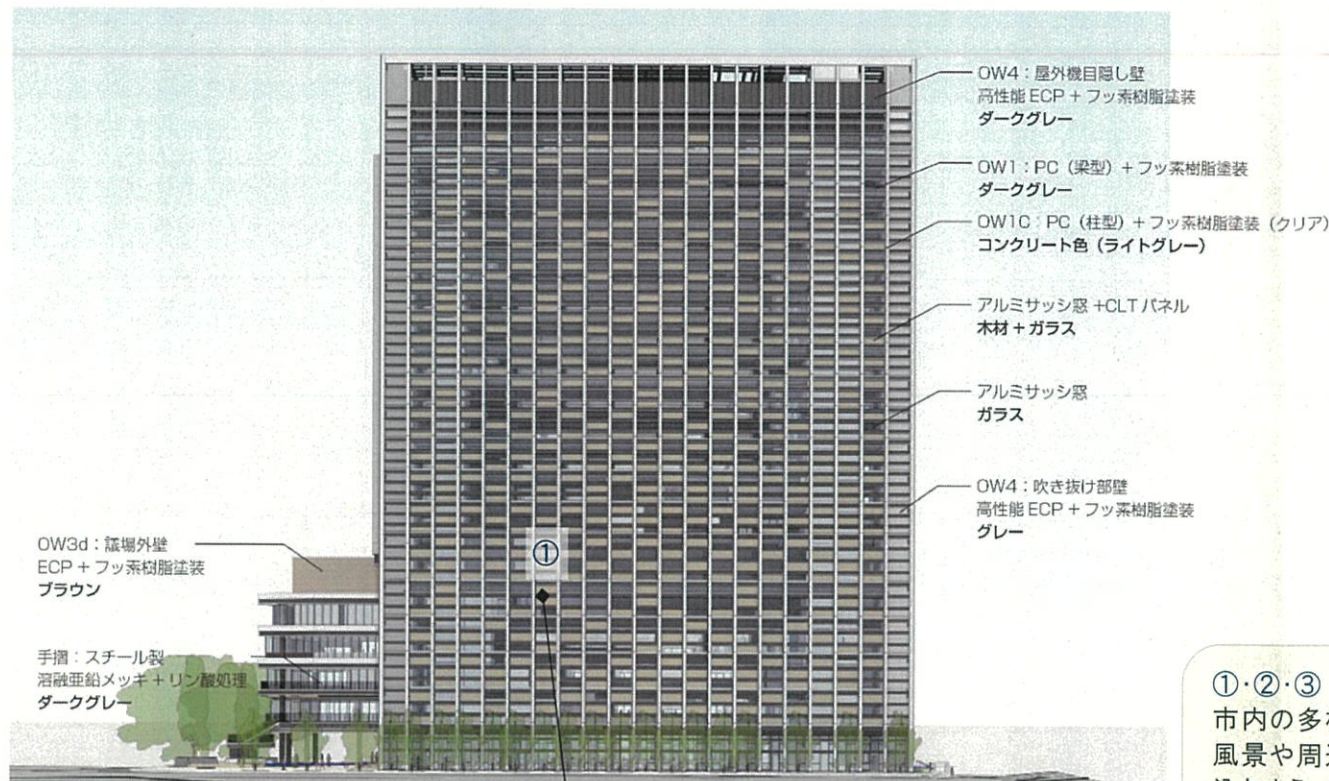
# 色彩・素材

## 《基本設計で決定した事項》

①木の表情が表れるデザイン

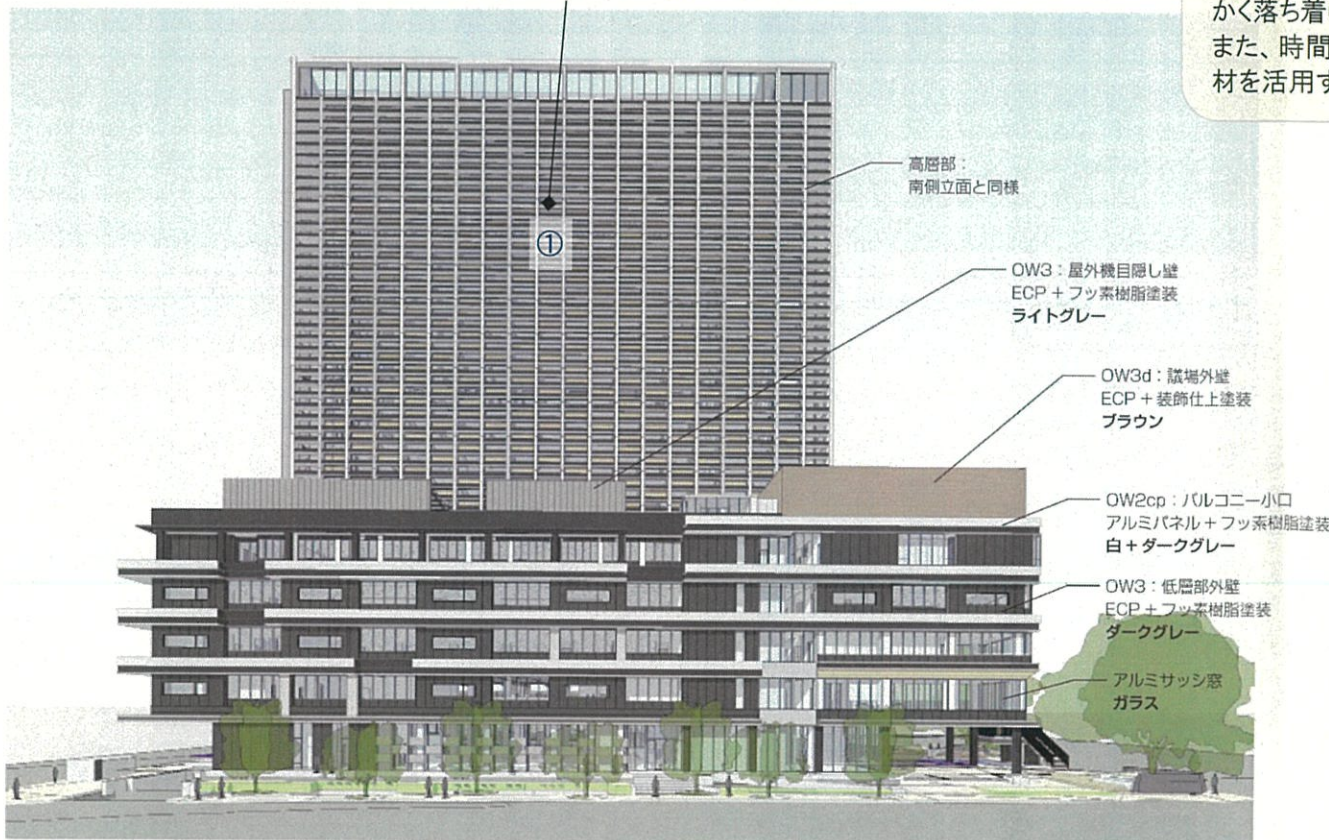
②周辺の視点場からの眺望に配慮したデザイン

③周辺のまち並みに調和し、圧迫感を押さえたデザイン



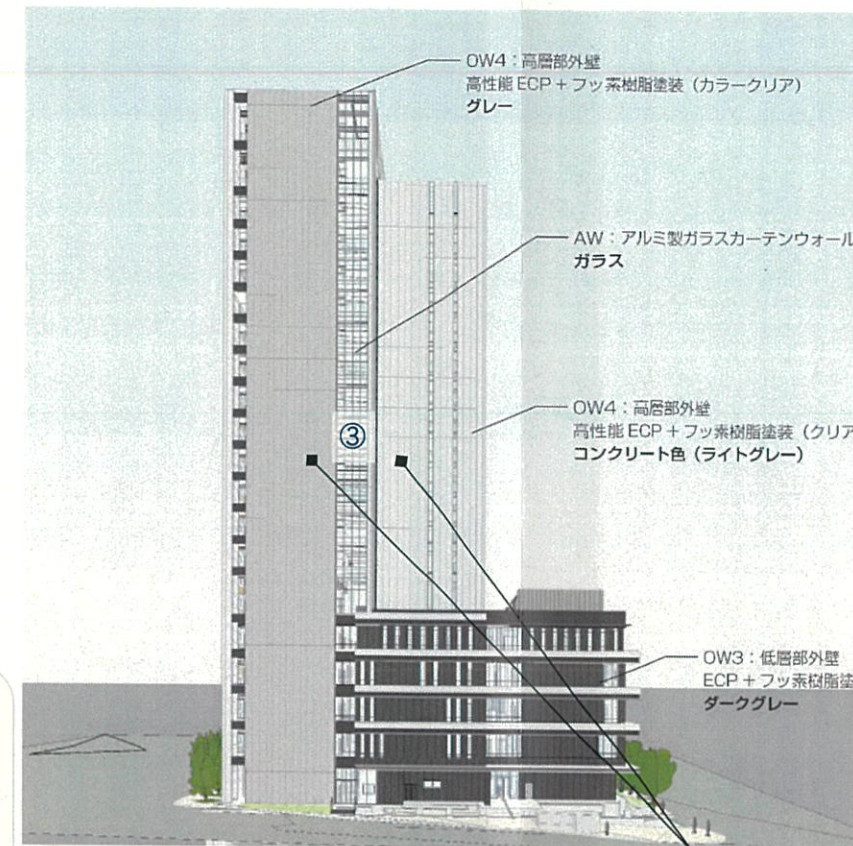
北側(長崎署側)立面イメージ

木質耐震パネルを用い、木の表情が外観として表れるデザインとする。(木材の利用による温かみのある空間)



南側(中央橋側)立面イメージ

①・②・③  
市内の多様な眺望点からの風景や周辺の街並みに溶け込むよう、木材・コンクリート等の素材の持つ色彩を活かしつつ、主張しすぎない、柔らかく落ち着いた色使いとする。また、時間の経過に耐える素材を活用する。



西側(勤労福祉会館側)立面イメージ

高層部を高さ、配置、色調の異なる2つのボリュームに分節し、スレンダーな見付けとする。(西側・東側)



東側(市民会館側)立面イメージ

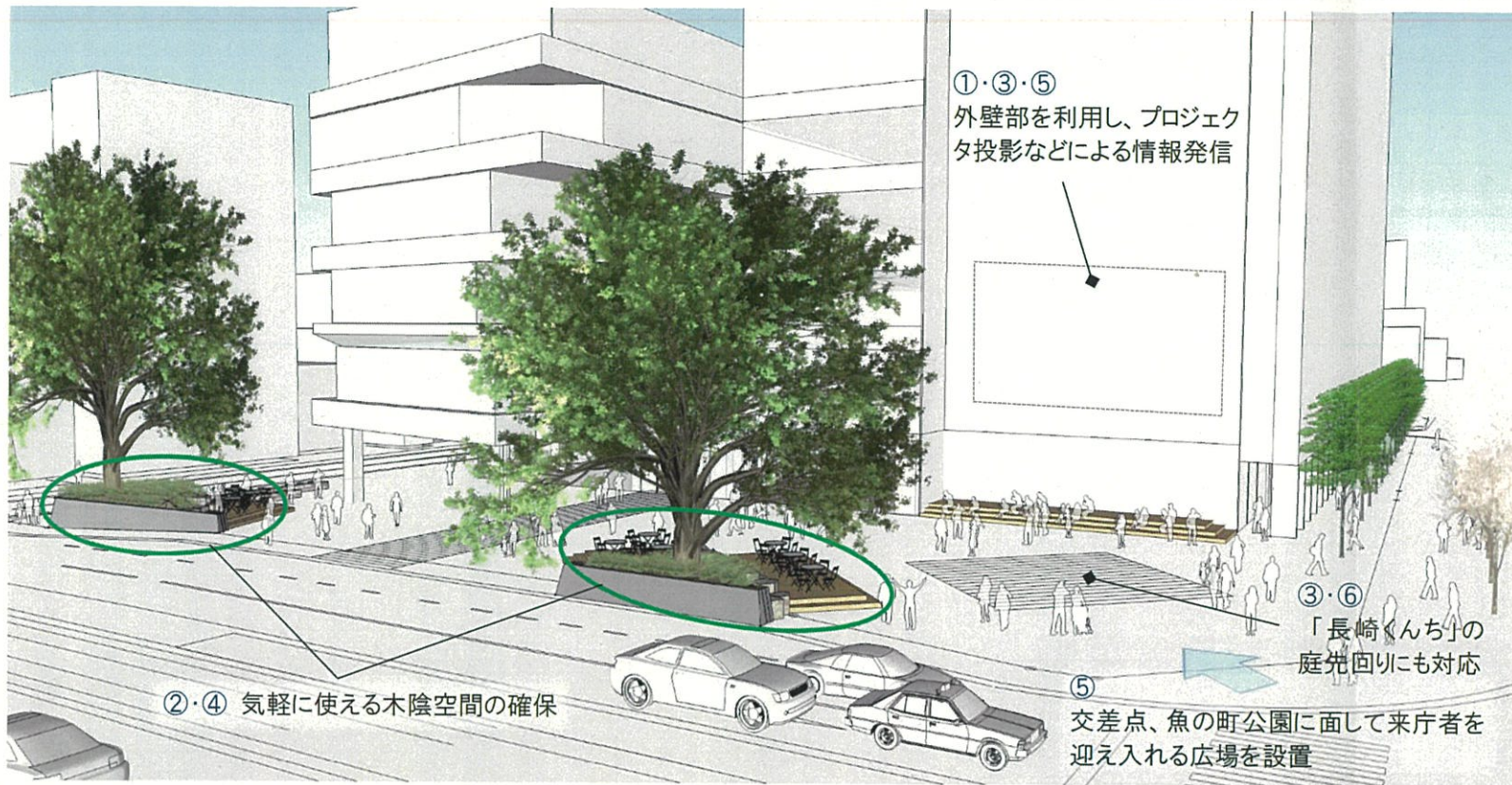


## (2) 広場や歩道について

### 広場

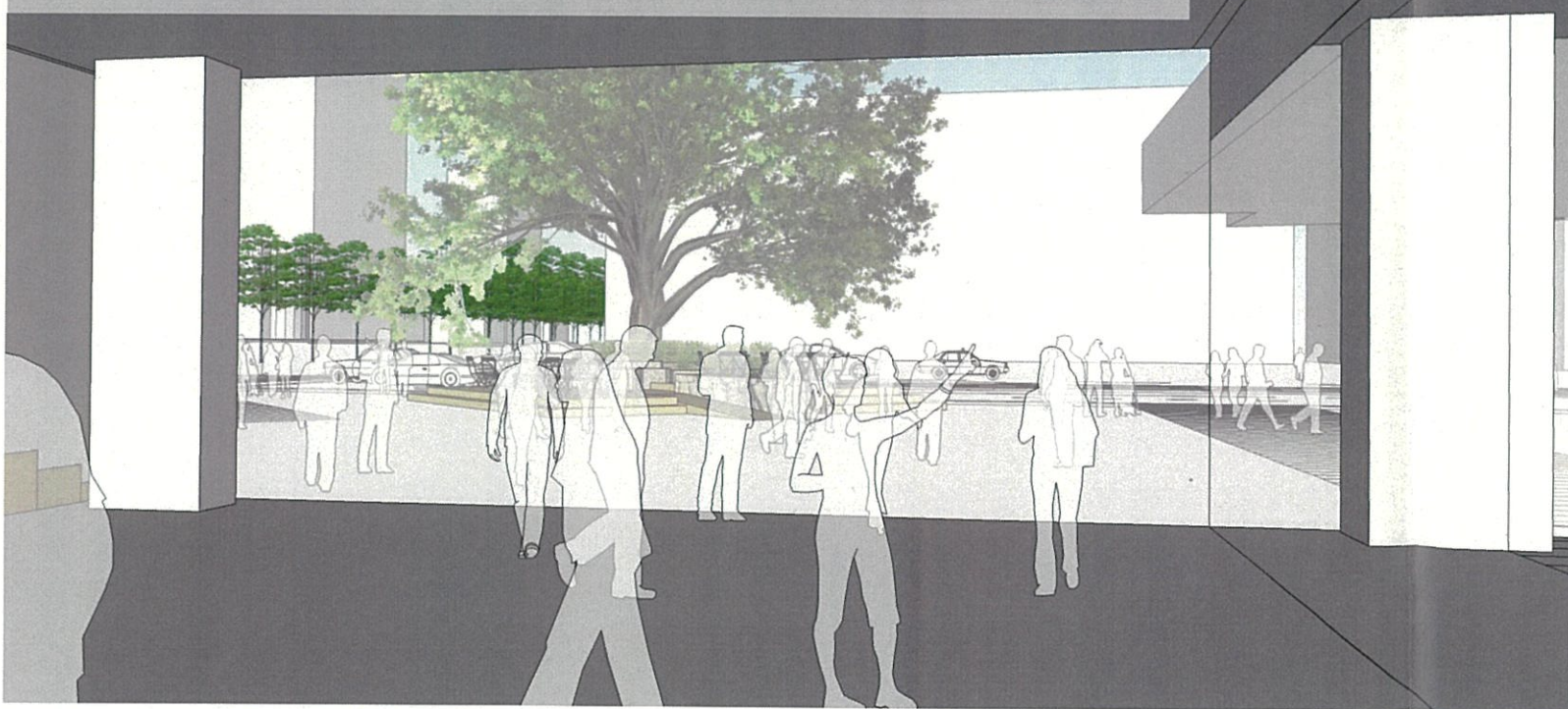
#### 《基本設計で決定した事項》

- ①庁舎と広場が連携し、一体的な活動が可能なデザイン
- ②市民が気軽に訪れ、くつろぐことができるデザイン
- ③様々なイベントの開催に対応したデザイン
- ④魚の町公園と一対の緑のゾーンを形成するデザイン
- ⑤まちなかへの回遊性を高め、賑わい創出に寄与するデザイン
- ⑥長崎をイメージさせる素材を用いたデザイン



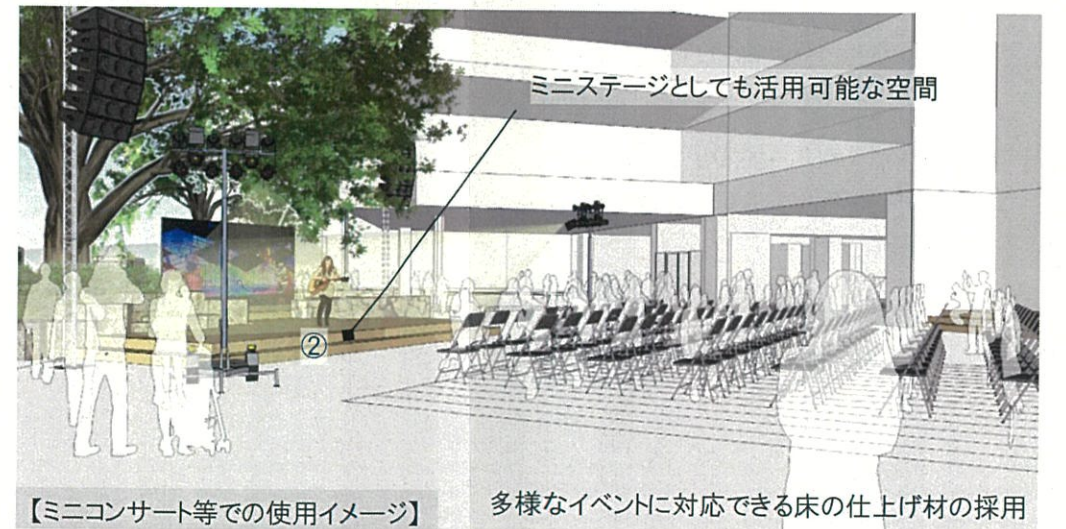
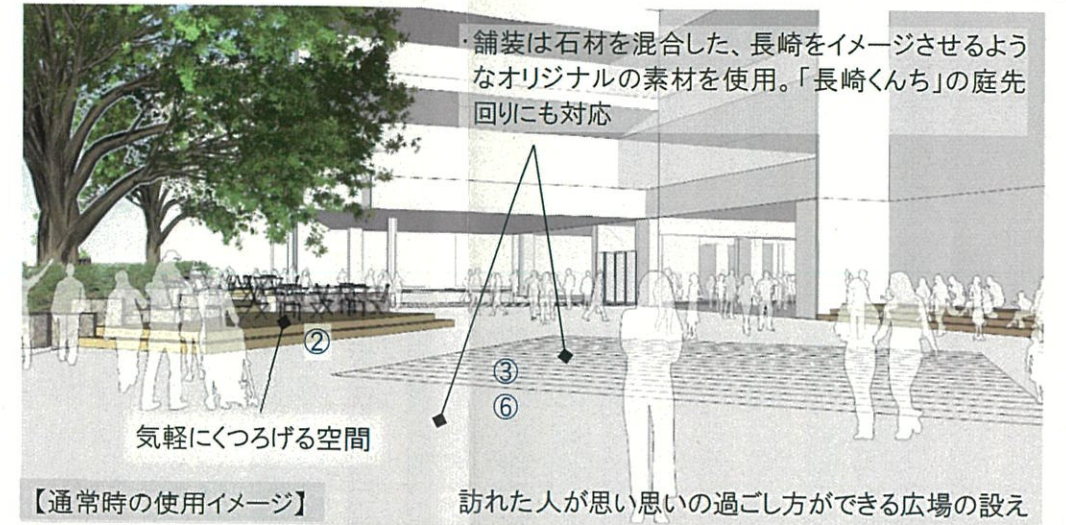
魚の町公園側から見たイメージ

① 広場に面する庁舎玄関、エントランスホールはガラス張りとし、広場との一体性を感じさせる計画とする。



エントランスホールから広場を見たイメージ

③・⑤ バスの待合、待ち合わせ、まちあるきの休憩、イベントなど多様な利用ができるようなデザイン



# 歩道・植栽

## 《基本設計で決定した事項》

- ①魚の町公園と一対の緑のゾーンを形成するデザイン
- ②まちなかへの回遊性を高め、賑わい創出に寄与するデザイン
- ③十分な広さを持った歩道と季節を感じられる緑の空間を持ったデザイン
- ④長崎をイメージさせる素材を用いたデザイン
- ⑤土地の歴史性を踏まえたデザイン

①・②・③

・道路並木と一体のゆとりある歩行者空間を創出し、長崎駅から中島川・寺町・まちなか軸へのつながりをつくる。また、並木は広場に吹くビル風も低減する。

④

・舗装は石材を混合した、長崎をイメージさせるようなオリジナルの素材を使用。



北側(長崎署側)道路



西側(勤労福祉会館側)道路:歩道の整備

①・②・③

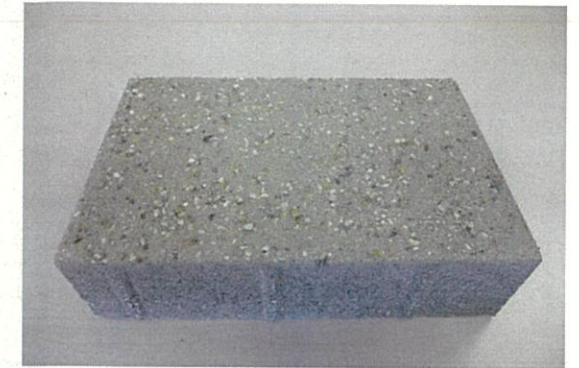
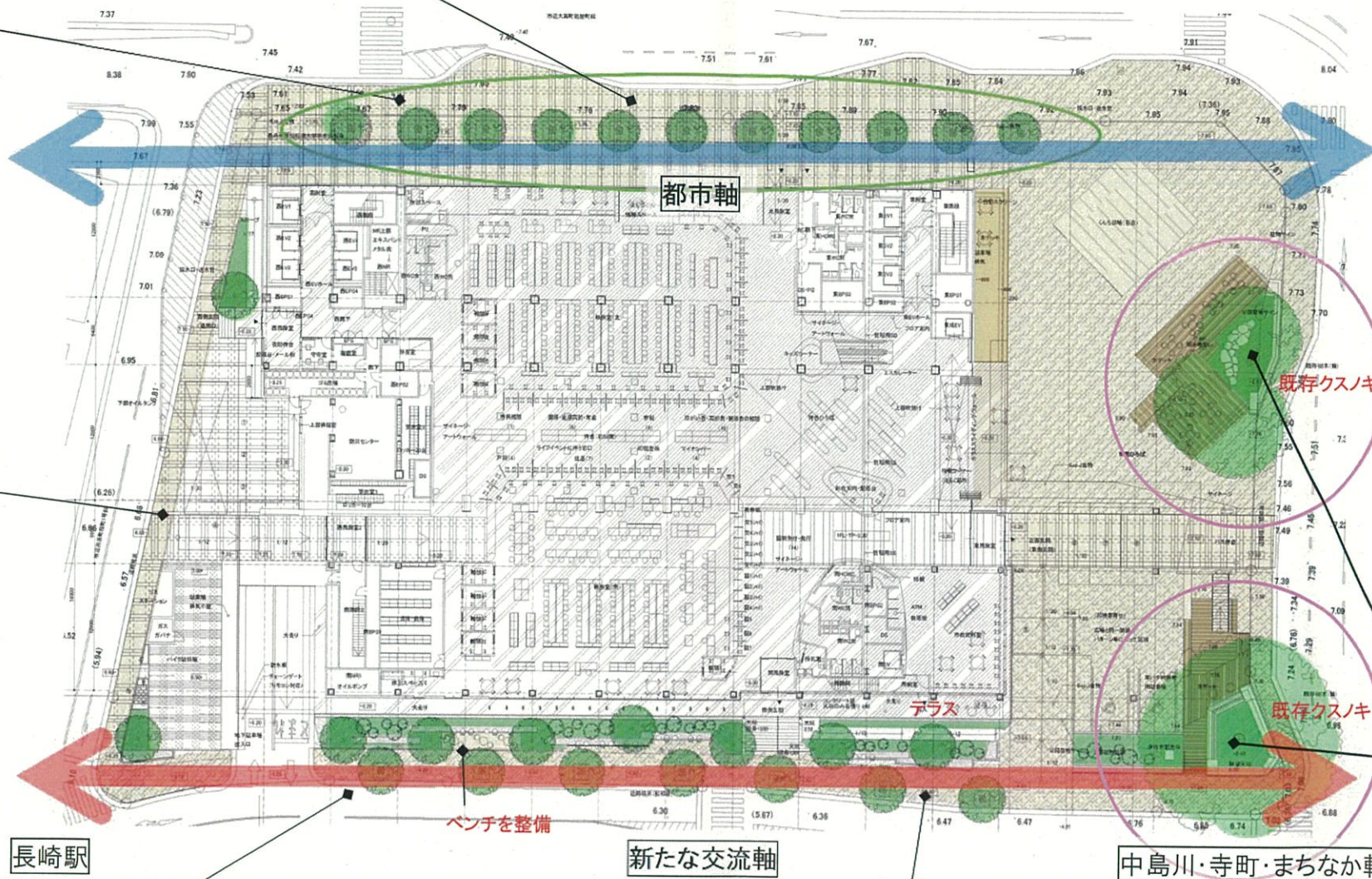
・新たな交流軸としてまちに開かれた空間づくり。  
・緑と休憩できる場をもつ歩行空間。  
・植栽の緩衝帯によって通りへの建物の圧迫感を低減。



南側(中央橋側)道路:歩いている途中で休める緑とベンチのある歩行空間



建物1階のテラスから歩道を見る。建物内部・歩道の一体性を高める。



石材を混合したオリジナルの舗装材



既存のクスノキ

①・⑤

既存のクスノキをできるだけ保存し、新市庁舎・エリアの新たなシンボルとして残す。ボリュームのある樹木は魚の町公園と一体となった、緑ある都市空間を創出。



クロガネモチ

アジサイ

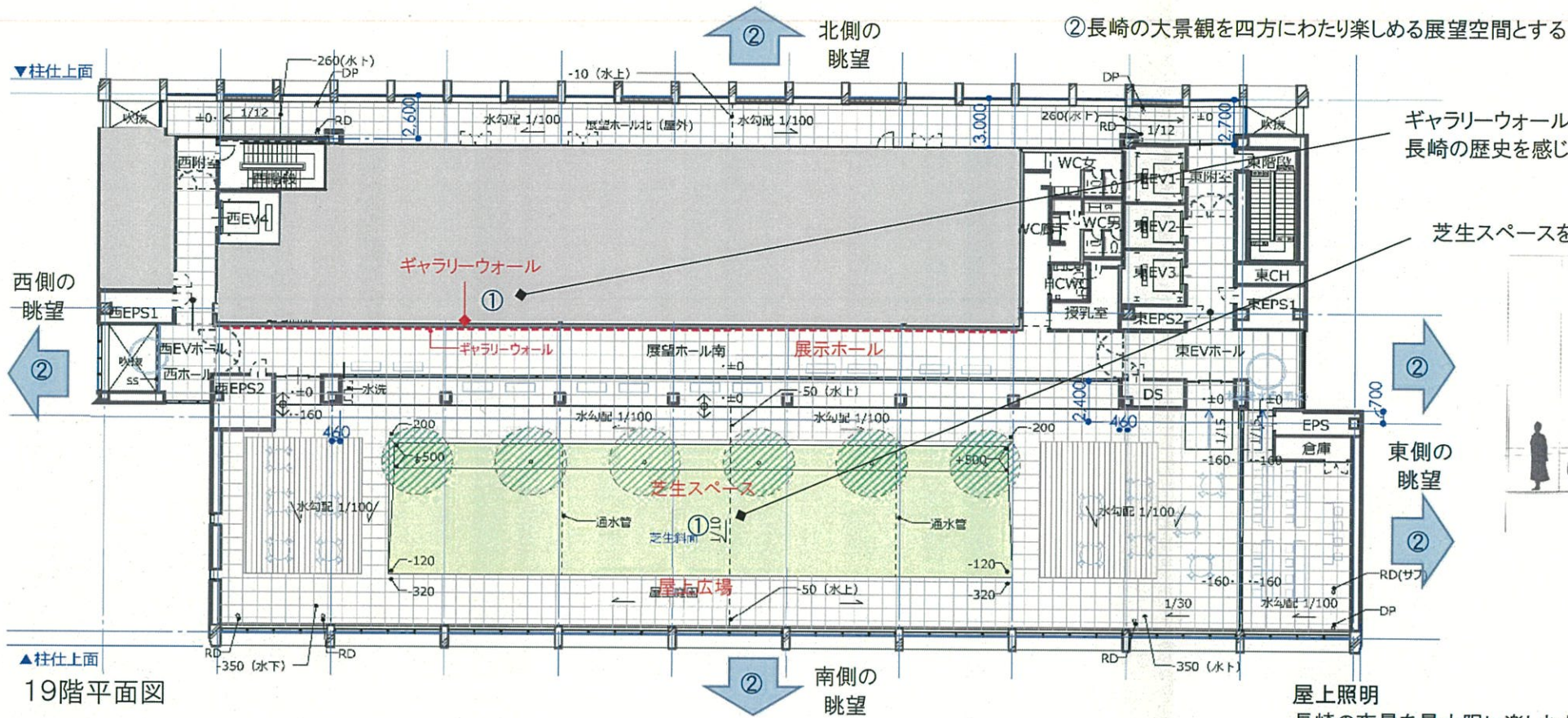
多様な植栽の混植

### (3) 展望フロアについて

#### 《基本設計で決定した事項》

①市民が気軽に訪れつづることができるデザイン

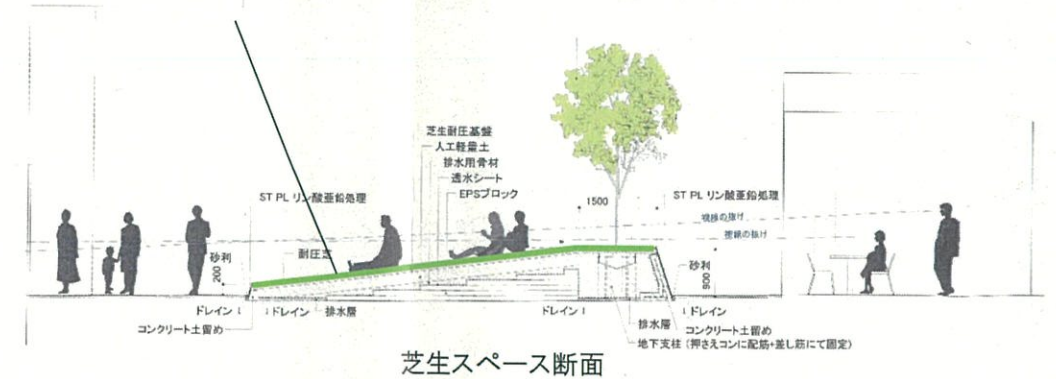
②長崎の風景を一望することができるデザイン



②長崎の大景観を四方にわたり楽しめる展望空間とする

ギャラリーウォールを整備し、市民活動の展示のほか、長崎の歴史・土地の変遷なども展示することで、長崎の歴史を感じながら、今の長崎の風景を眺めることができる場とする。

芝生スペースを整備し、誰もが安心して思い思いの過ごし方ができる空間とする。



#### 屋上照明

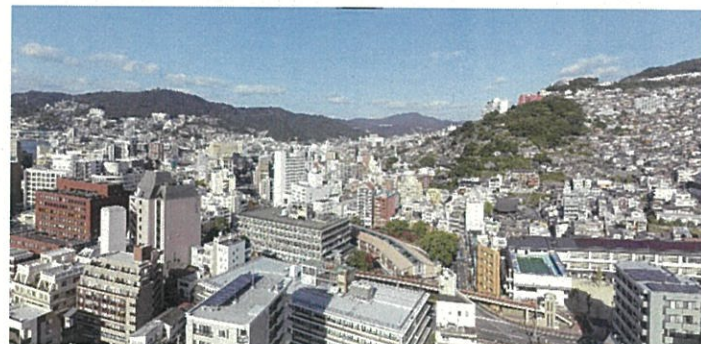
長崎の夜景を最大限に楽しむために、最低限必要な明るさのみを確保する最小限の照明を配置。日没から夜景への風景の移り変わりを楽しめる長崎の新たな夜景スポット。



北側(長崎署側)立山、諏訪神社を望む



東側(市民会館側) 風頭山、寺町を望む



西側(現市庁舎側) 稲佐山を望む



南側(中央橋側) 長崎港を望む



## (4) ライトアップについて

### 《基本設計で決定した事項》

#### ① 近景・中景・遠景に配慮したライトアップデザイン

① 夜の風景に溶け込みつつ、新しい夜景をつくる。(遠くから見たときのランドマーク性(頂部のあかり)、近くにいる時の安心・安全性(低層部のあかり))

#### 吹き抜け照明

東西角の吹き抜け部は低層部からのアップライトで照らし、建物頂部の明かりと併せて建物の輪郭を強調する。

#### 建物頂部の明かり

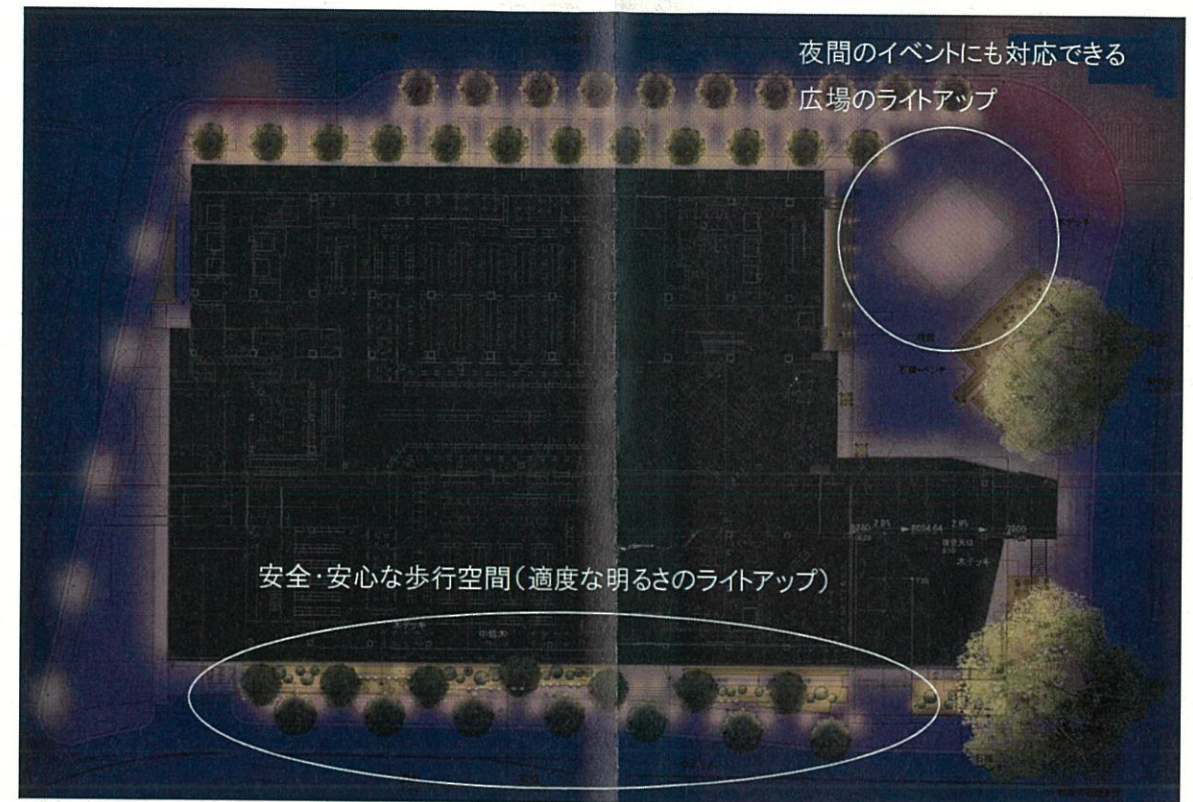
遠方からの視認性が期待できる建物頂部は、アップライトによって屋上のPCフレームを照らし上げ、建物のアクセントをつくる。イベント時には色を変えられる仕掛け。

#### コラボレーションエリア つきあたりの明かり

東西面のガラスカーテンウォール部分(コラボレーションゾーンの突きあたり)の吹抜けは高天井を照らすことで、開放感のある空間を演出するとともに、外観のライトアップも兼ねる。

#### 建物フレームの明かり

建物内部の活動の様子＝明かりが夜間の建物デザインとして、まちに映し出されるようなライトアップ。建物外装のPCフレーム内に照明を配置し、フレームを照らすことで、建物全体をほのかに浮かび上がらせる。



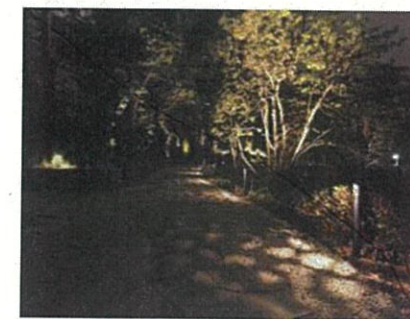
夜間のイベントにも対応できる  
広場のライトアップ

安全・安心な歩行空間(適度な明るさのライトアップ)

外構のライトアップイメージ



広場側交差点付近から見た建物のライトアップイメージ。



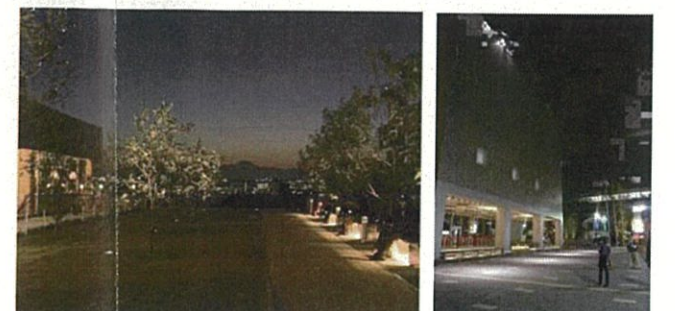
樹木のライトアップイメージ



植栽帯等のライトアップイメージ



歩道のライトアップイメージ



広場のライトアップイメージ